

平成22年度
第37期

事業報告書
決算報告書

自 平成22年1月1日
至 平成22年12月31日

東京都中央区八丁堀2-13-4第3長岡ビル5階
財団法人 岩谷直治記念財団

目 次

I	事業報告	1
	事業概況と実績	1
	累計事業実績	2
	1. 岩谷科学技術研究助成	4
	2. 岩谷直治記念賞	6
	3. 国際交流	6
	4. 人材育成	9
	5. 広報活動	9
	6. 収 支	9
II	主要事業日程	10
III	決算報告	11
	1. 貸借対照表	11
	2. 正味財産増減計算書	12
	3. 財務諸表に対する注記	14
	4. 財産目録	16
	5. 収支計算書	17

I 事業報告

事業概況と実績

当財団は科学技術に関する研究開発の助成および奨励、国際交流の推進のための援助並びに人材の育成を行なうことにより、科学技術全般の一層の発展を図るとともにあわせて表現芸術等の育成のための援助を行い、もって国民福祉の向上および国際的な相互理解の促進に寄与することを目的としております。その達成のために平成22年度においては、つぎの事業を実施いたしました。

1. 科学技術に関する研究開発の助成

岩谷科学技術研究助成金	19件	3,717万円
-------------	-----	---------

2. ガスおよびエネルギー分野における成果の表彰

岩谷直治記念賞	1件	300万円
---------	----	-------

3. 国際交流の推進

①岩谷国際留学生研究助成金	11名	2,385万円
---------------	-----	---------

②国際研究交流助成	6名	260万円
-----------	----	-------

4. 人材育成

表現芸術育成	1件	500万円
--------	----	-------

表 - 1

累計事業実績

(単位：万円)

回	年度	研究助成金		記念賞		留学助成金		国際交流		人材育成	
		件数	金額	件数	金額	人数	金額	件数	金額	件数	金額
1	昭和49年度	15	3,630	1	100						
2	昭和50年度	15	3,450	2	200	6	312				
3	昭和51年度	13	3,000	0	0	5	318				
4	昭和52年度	13	3,100	1	100	5	354				
5	昭和53年度	13	3,550	1	100	7	414	3	82		
6	昭和54年度	12	3,000	1	100	5	391	1	50		
7	昭和55年度	13	3,000	2	200	7	514	4	387		
8	昭和56年度	13	3,000	1	100	12	866	6	376		
9	昭和57年度	12	3,000	1	100	10	876	2	94		
10	昭和58年度	13	3,000	0	0	9	837	8	756		
11	昭和59年度	15	3,070	1	100	12	1,026	6	410		
12	昭和60年度	14	2,870	0	0	11	1,173	3	270		
13	昭和61年度	15	3,000	1	100	11	1,182	2	245		
14	昭和62年度	15	3,080	0	0	12	1,380	4	100	1	1,000
15	昭和63年度	17	3,400	2	200	11	1,240	3	100	1	1,000
16	平成元年度	17	3,230	0	0	13	1,470	9	340	1	1,000
17	平成2年度	15	3,000	2	400	13	1,447	4	167	1	1,000
18	平成3年度	16	3,100	1	200	10	1,250	5	284	1	1,000
19	平成4年度	16	3,160	1	200	10	1,210	13	741	2	1,100
20	平成5年度	19	3,600	1	200	11	1,755	9	384	2	1,050
21	平成6年度	19	3,600	0	0	13	2,115	7	483	2	1,050
22	平成7年度	19	3,800	0	0	12	2,100	12	431	3	1,070
23	平成8年度	18	3,600	2	600	12	2,025	6	230	3	1,070
24	平成9年度	20	3,600	1	300	11	1,980	7	275	3	1,220
25	平成10年度	19	3,600	2	600	11	2,025	5	372	3	1,300
26	平成11年度	18	3,600	1	300	11	1,980	8	332	4	1,331
27	平成12年度	18	3,600	1	300	11	2,025	7	282	4	1,200
28	平成13年度	19	3,600	1	300	11	1,950	10	784	3	1,250
29	平成14年度	19	3,600	1	300	11	1,920	6	220	2	1,100
30	平成15年度	18	3,600	1	300	11	1,935	7	240	2	1,065

回	年度	研究助成金		記念賞		留学助成金		国際交流		人材育成	
		件数	金額	件数	金額	人数	金額	件数	金額	件数	金額
31	平成16年度	17	2,550	1	300	7	1,440	5	155	1	500
32	平成17年度	17	2,452	1	300	7	1,305	0	0	1	500
33	平成18年度	19	3,614	2	600	8	1,530	5	230	1	500
34	平成19年度	18	3,504	1	300	10	1,755	6	230	1	500
35	平成20年度	18	3,579	1	300	9	1,785	8	380	1	500
36	平成21年度	18	3,515	0	0	9	1,920	6	263	1	500
37	平成22年度	19	3,717	1	300	11	2,385	6	260	1	500
	累計	604	122,371	36	7,500	355	50,190	193	9,953	45	22,306

累計額 212,320万円

1. 岩谷科学技術研究助成

①助成対象

資源、エネルギーおよび環境（太陽エネルギー、水素エネルギー、低温とその利用なども含む）などに関する重要かつ独創的な研究。

②助成金総額 3,717万円 19件

③推薦期間 平成22年6月1日～平成22年7月31日

④推薦依頼先

国立大	59	私立大	39	公立大	7	高専	2	計	107
-----	----	-----	----	-----	---	----	---	---	-----

⑤推薦件数 144件（前年度 121件）

⑥選考経過と結果

a. 第1回選考委員会（9/30）

選考方法は昨年度と同じく、1テーマについて2名の選考委員審査とした。担当するテーマは選考委員の希望に基づいて決定。採点は5点法とした。本年度の応募件数は144件を数えたため、1人当りの審査件数は29～37件。

b. 書類審査

担当するテーマを審査し、担当テーマのうち5点は10%（2～3件）、4点は20%（5～6件）を選び、審査内容を添付の上選考委員長に提出。

c. 第2回選考委員会（11/4）

各委員から提出された審査報告をもとに、2選考委員の合計点が9点以上の案件を推薦。ついで合計点が8点のものについて総合的な検討を重ね、助成候補として計19件が推薦された。

⑦決定

選考委員会推薦の19件を第64回評議員会に諮り承認後、理事長が別表19件を助成対象に決定した。

表-2 第37回(平成22年度)岩谷科学技術研究助成金受領者

	大 学 (所 属)	研究者名 (職 名)	研 究 題 目	助成金額 (千円)
1	大阪大学 産業科学研究所	准教授 家 裕隆	有機薄膜系太陽電池への応用を目指した非フラーレン系電子輸送性材料の開発	2,000
2	千葉大学 大学院理学研究科	准教授 泉 康雄	光で駆動する燃料電池の創製	2,000
3	福井大学 工学部	准教授 内村 智博	有害化学物質の超微量分析のための手法開発	2,000
4	慶応義塾大学 理工学部応用化学科	専任講師 奥田 知明	大気微小粒子(PM2.5)削減のための独立電源型大気観測システムの構築	2,000
5	京都大学 エネルギー理工学研究所	教授 片平 正人	溶液 NMR 法による木質バイオマスの水熱分解過程の丸ごと実時間モニタリングと活用基盤の確立	2,000
6	岡山大学 異分野融合先端研究コア	特任助教 金原 正幸	導電性ナノ粒子の合成と完全溶液プロセスによる半導体デバイスの創製	2,000
7	筑波大学 大学院数理物質科学研究科	教授 小島 隆彦	ポルフィリン超分子を基盤とする光エネルギー変換-酸化触媒系の構築	2,000
8	千葉大学 大学院融合科学研究科	准教授 城田 秀明	ジカチオン型イオン液体の材料評価：高付加価値電解質への応用に向けて	2,000
9	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科	准教授 園田 早紀	遷移金属添加III族窒化物半導体を用いた新規光電変換素子の開発	2,000
10	群馬大学 大学院工学研究科	教授 中川 紳好	高濃度駆動の直接メタノール燃料電池における電極構造体内部での物質移動制御	2,000
11	高知工業高等専門学校 機械工学科	教授 永橋 優純	木質バイオマス材からの新規燃料の効率的製造に関する研究	2,000
12	名古屋工業大学 若手研究イノベーション養成センター	特任教員 林 灯	窒素ドーピングメソポーラスカーボンナノリアクターの創製	2,000
13	大阪大学 大学院工学研究科	助教 福原 学	環境保全型新規キラル光反応の挑戦	1,500
14	茨城大学 理学部	教授 藤澤 清史	メタノールエコノミー実現のための生体模倣触媒の開発	2,000
15	横浜国立大学 大学院工学研究院	准教授 丸尾 昭二	光造形セラミックスモールディングによる高効率マイクロ発電素子の開発	2,000
16	神戸大学 大学院工学研究科	准教授 丸山 達生	ナノファイバーゲルによる液体燃料の固体ハンドリング技術の開発	2,000
17	北海道大学 大学院工学研究院	准教授 三浦 誠司	高融点ニオブ基合金の組織設計のための高温破壊高速その場観察装置の開発	1,968
18	広島大学 大学院工学研究院	准教授 陸田 秀実	柔軟薄膜エンボス素材による洋上風力発電用デバイスの開発	2,000
19	北海道大学 大学院情報科学研究科	教授 本久 順一	半導体ナノワイヤを用いた高効率太陽電池に関する研究	1,700

計 37,168

2. 岩谷直治記念賞

開発業績の主題は、従来どおり「エネルギー及び環境」分野での新しい資源化技術、効果的な利用技術および環境・安全に関する研究開発を対象とし、関連学・協会及び関係団体に6月1日から8月31日にかけて推薦を依頼いたしましたところ、5件の推薦がありました。

第2回選考委員会(11/4)における最終審査の結果、(株)東芝の「大容量高効率水素間接冷却タービン発電機の開発」は大変優秀な開発業績であり、記念賞に値するとして選考委員会より推薦されました。本案件について第64回評議員会に諮り承認後、理事長が記念賞に決定しました。

表-3 第37回(平成22年度)岩谷直治記念賞受賞者

所 属	代 表 者	推 薦 者	業 績 テ ー マ
株式会社 東芝 電力・社会システム技術開発センター 回転機器開発部 回転電機技術担当	グループ長 加幡安雄	社団法人 電気学会 会長 藤本 孝	大容量高効率水素間接冷却タービン発電機の開発

3. 国 際 交 流

①第36回(平成22年度)岩谷国際留学生研究助成金

a. 採用概況(応募期間: 21.12.1~21.12.20)

応募総数441名(前年401名)のうち、書類審査・面接により表-4の11名を決定しました。

b. 交流活動

留学生との親睦を図るため、次の例会を開催しました。

第1回(4/16)鉄鋼会館会議室においてオリエンテーション、第2回(7/2)国立西洋美術館(ナポリ宮廷絵画鑑賞)、NHKスタジオパーク見学、

第3回(9/9~11)熊本・長崎への研修旅行、第4回(12/3)国立新美術館(ゴッホ展鑑賞)、日本庭園(六義園)鑑賞、第5回(3/7)贈呈式招待・最終例会予定。

表-4 第36回(平成22年度)岩谷国際留学生研究助成金受領者一覧

No	氏名	国籍	大学・専攻	課程	備考
1	李 佶 勳 女 LEE Kil Hun 33才	韓 国	東 京 大 学 建 築 学	博 4	
2	洪 潤 基 男 HONG Yun Ki 32才	韓 国	慶 応 義 塾 大 学 開 放 環 境 科 学	博 4	
3	李 峰 栄 女 LI Feng Rong 31才	中 国	名 古 屋 大 学 社 会 シ ス テ ム 情 報 学	博 4	
4	喬 卉 女 QIAO Hui 26才	中 国	山 口 大 学 環 境 共 生 系	博 3	
5	梁 海 超 男 LIANG Hai Chao 30才	中 国	九 州 工 業 大 学 脳 情 報	博 4	
6	李 旭 薫 男 LEE Hsu Hsun 29才	台 湾	岐 阜 大 学 獣 医 学	博 3	
7	楊 雅 婷 女 YANG Ya Ting 25才	台 湾	早 稲 田 大 学 健 康 ・ 生 命 医 科 学	博 4	
8	ラン ム ゴー 男 HL WAN Moe Zaw 28才	ミャンマー	東 京 都 市 大 学 都 市 基 盤 工 学	博 2	
9	ドゥイ ペブリアンティ 女 DWI Pebrianti 29才	インドネシア	千 葉 大 学 人 工 シ ス テ ム 科 学	博 3,4	
10	ハヤッカ-ポン アンヤポン 女 ANYAPORN Payakkapon 25才	タイ	国 際 大 学 M B A	修 1,2	H23年 6月迄
11	ハートル バイガルマ- 女 BAATAR Baigalmaa 28才	モンゴル	秋 田 大 学 情 報 工 学	修 2	

②その他の国際交流

a. 国際会議関係 (4件)

助成テーマ	助成先	助成金額(円)
2010年合成金属の科学と技術に関する 国際会議 (22.7.4~7.9 国立京都国際会館)	同組織委員会 委員長 赤木 和夫	500,000
第2回先端磁性材料と応用に関する 国際シンポジウム (22.7.12~7.16 仙台国際センター)	同組織委員会 委員長 高橋 研	500,000
原子・分子・クラスター・表面の多粒 子相関分光国際会議 (22.9.4~9.7 東北大学さくらホール)	同組織委員会 委員長 上田 潔	500,000
第3回国際セラミックス会議 (22.11.14~11.18 大阪国際会議場)	同組織委員会 委員長 新原 皓一	500,000

b. 海外国際会議関係 (1件)

助成テーマ	助成先	助成金額(円)
第11回木質構造国際会議 (22.6.2~6.27 イタリア トレントイ-))	熊本大学 准教授 楊 萍	300,000

c. 国際研究集会 (1件)

助成テーマ	助成先	助成金額(円)
第23 ジャパンテント (22.8.19~8.25 石川県全域)	ジャパンテント開催委員会 会長 飛田 秀一	300,000

4. 人材育成

表現芸術関係 (1件)

助成テーマ	助成先	助成金額(円)
第79回日本音楽コンクール	同委員会 委員長 野田 輝行	5,000,000

5. 広報活動

財団機関誌「needs」 vol.36 (2010)

「研究報告書」 vol.33 (2010)

を発刊

6. 収 支

事業活動収入(当期収入)は、予算額11,318万円に対し決算額は17,492万円で、6,174万円増となりましたが、これは、当初見込んでいた配当(1株当たり5円)に対して3円の増配(1株当たり8円)があったことに因るものです。

事業活動支出のうち、事業費支出については8,005万円の予算に対し、決算額は8,462万円と457万円増となりました。これは、奨学生の採択数を11名に増員したことにより留学生奨学助成費支出等が増加したことに起因しています。次に管理費支出については、予算額2,080万円に対し決算額は2,178万円と98万円増になりましたが、これは、理事会費支出・評議員会費支出が当初の見込み額に対して大幅減になったものの、財団事務所について、財団と不動産会社(長岡不動産(株))が賃貸借契約を直接取り交すことになったことにより一次的な賃借料支出(差入保証金437万円)が発生したことに因るものです。したがって事業活動支出は、10,085万円の予算に対して決算額は10,639万円ですので、対予算では△554万円となりましたが、3円の増配があったために事業活動収支差額は6,853万円の黒字となっております。

次期繰越収支差額は、当期収支差額62,429,735円に前期繰越収支差額27,393,856円を加えて、89,823,591円となりました。

以上の通り、平成22年度の収支について概要をご報告致します。

Ⅱ 主要事業日誌

年 月 日	内 容
22. 2. 17	岩谷国際留学生研究助成候補者面接選考（20名）
. 3. 8	第74回理事会、第63回評議員会 ・第36期(平成21年度)事業報告及び収支決算報告承認 ・第36回(平成21年度)岩谷科学技術研究助成選考課題承認 第36回(平成21年度)岩谷科学技術研究助成贈呈式
. 3. 15	平成22年度岩谷国際留学生研究助成金受領者決定（11名）
. 6. 1	第37回(平成22年度)岩谷直治記念賞候補者推薦依頼 第37回(平成22年度)岩谷科学技術研究助成候補者推薦依頼
. 6. 18	臨時理事会（書面表決） ・株主議決権の行使承認
. 7. 31	岩谷科学技術研究助成候補者推薦締切（144件）
. 8. 1	研究報告書(Vol.33)発刊 財団機関誌「needs」(Vol.36)発刊
. 8. 31	岩谷直治記念賞候補案件推薦締切（5件）
. 9. 30	第1回選考委員会（研究助成）
. 10.20	臨時理事会・評議員会 ・公益法人制度改革諸案件（公益法人へ移行、移行後の事業、最初の評議員の選任方法、最初の評議員の選定委員など）
. 11. 4	第2回選考委員会（研究助成・記念賞）
. 11.24	第75回理事会、第64回評議員会 ・平成23年度事業計画及び収支予算承認 ・第37回(平成22年度)記念賞（1件）・研究助成（19件）決定 ・第14期(平成23年1月1日～平成25年12月31日)評議員18名選任
. 12. 1	第37回(平成23年度)岩谷国際留学生候補者募集開始
. 12.20	第37回(平成23年度)岩谷国際留学生候補者募集締切（505名）